

# 皆さんの声を町政に まちづくり懇談会



開会にあたり佐々木学町長からあいさつ（カルチャープラザ「Eki」：6月28日）

佐々木学町長との「まちづくり懇談会」が、6月24日から7月2日まで、町内6会場で行われました。集まった町民は延べ123人。今年度は、これからのまちづくりとして「栗山赤十字病院の改築」「栗山駅南交流拠点施設の活用」、また、令和3年度の主要施策のうち「新型コロナウイルス感染症対策」「栗山高等学校の魅力づくり」などについて、町民の皆さんと意見交換・懇談を実施しました。

※町ホームページから懇談会の議事録や、町からの情報提供資料を閲覧できます。

○トップページ↓「組織でさがす」↓「広報・防災・情報グループ」↓「まちづくり懇談会」  
(<https://www.town.kuriyama.hokkaido.jp/soshiki/28/13120.html>)

まちづくり懇談会議事録

## 栗山赤十字病院の改築

**質疑** 改築後、駐車場には車を何台停められるか。

**回答** 駐車場の広さは2倍から2.5倍ほどになるので、約70台弱の駐車スペースは確保できる。設計はこれからなので若干の増減はあるが、駐車場のスペースは極力確保したい。

**質疑** 付き添いの方も入ることができ、多目的トイレのような施設があればいい。

**回答** トイレの関係は今後の設計になるが、現在の病院のトイレよりは広くなると聞いている。廊下、トイレ、受付などは町民の皆さんが特に利用するところなので、設計・建設に向けて注意深く協議したい。

**質疑** 病院の玄関前にバス停を置いて、町のコミュニティバス・中央バス・夕鉄バスなどの交通機関に、

直接乗り降りできるようにしてほしい。

**回答** 人工透析棟の北側に、タクシーなどの乗り降りができるロータリーを設置することが案の中に入っている。どれくらい広さのエリアを確保できるかは、バス停留所の設置や、屋根にかかる部分で乗り降りできるかを含めて検討したい。

## 栗山駅南交流拠点施設の活用

**質疑** 民間のノウハウや知恵を入れることが、管理のうえで重要だと思う。

**回答** 施設開設のための準備事務所スタッフに加え、地域おこし協力隊として令和元年に採用した2人と今年採用した5人で活動する。隊員は栗山に入ってきたばかりなので、町民や町内企業の協力を得ながら、隊員にさまざまなノウハウを学んでもらい、法人組織を作っていきたい。基



本的にはスケジュール通りに準備を進め、令和4年10月には法人組織を立ち上げたいと考えている。

**質疑** 煉瓦創庫を活用している中で、建物のデザインなどについて、長期的にはどのように計画しているのか。

**回答** 煉瓦創庫の形を変えることはないが、施設内をまた訪れたくなる空間にしたい。例えばものづくりDIY工場の機材を活用して、ワークショップ形式で店内の椅子などを作ることにも考えている。ぜひ町民皆さんにも参加してもらって、一緒に作っていきたい。

## 新型コロナウイルス感染症対策

**質疑** 若い人ほどワクチンの接種率が下がると思う。そういった方々に特段の対応は考えているか。また、ワクチン接種後に熱が出たという話も聞くが、町は把握しているか。

**回答** ワクチンの有効性は広報くりにやまやホームページで周知している。今後も若年層に対し、ワクチン接種のメリットを積極的に発信していく。また、ワクチン接種の副反応として、接種から2日ほど経過すると熱が出ることもあるが、心配されている強い副反応は、町で行った接種では出ていない。

**質疑** 令和2年から数えて、10数回新型コロナウイルス感染症対策のチラシを配布しているが、急ぎの全戸配布の文書は、どのように配ればよいか伝えてほしい。

**回答** 新型コロナウイルス感染症対策のチラシは、北海道の緊急事態宣言下での町の対応やワクチン接種など、大切なお知らせを配布していただいている。緊急事態宣言下では、国や道の方針が出されてから町の感染防止対策を決定しチラシを配布させていた

だいているが、緊急事態宣言決定から期間開始までの時間が短く、町内会長・自治会長の皆様にはそのたびに急な配布をお願いしている。今後は配布期限などを明確にし、配布依頼させていただく。

## 栗山高等学校の魅力づくり

**質疑** 栗山高校の魅力づくりには保育所、小学校、中学校も含め全体を通じた教育の体制づくりが必要だと思ふ。秋田県は大学の全国模試でもトップクラスであり「まちづくりは人づくり」として、一番力を入れたのが教育だ。選ばれる栗山町、栗山高校にするため、例えば茨城県境町での英語教育の取り組みのように、英検の検定料を町が負担することなどがあればいい。CDを聞かせ簡単な英語で歌を歌えるようにするといった、保育所での英語教育から出発していけば、小学校・中学校・高校に進学した後

も役立つ。今の福祉分野で

は外国人労働者が多くなっている中で、介護福祉学校でも授業の一環として取り組みを充実していくことができると思っている。

**回答** 秋田県大館市では、地域の人たちが学校での教育活動に参加していた。学校の教育に多くの人が関わる点が、他のまちの教育とは違う。この教育を長年続けてきたことが、現在の成果につながっていると聞いた。今年から町では、若手農業青年団体の力を借りて、角田・継立小学校でさつまいも栽培を始め、栗山の名物となる商品を作ろうとしている。また、月に何度かALT（外国語指導助手）を町内の幼稚園・保育所に派遣し、英語への抵抗感を取り除こうとする取り組みが行われている。これからは英語以外にも、町民の力を広く借りる時代が来る。なお、英検の検定補助などは以前から栗山町でも実施しているので、もっとPRしていきたい。